

365 日、全力で患者さんと向き合う

ポジティブ大天使

2021 年 9 月 24 日

医療福祉ジャーナリズム分野 修士課程

吉田 和佳子

片木 美穂 先生

365 日体制で卵巣がん患者さんに寄り添って支え続ける信じがたいほどの熱意。

ご活動に圧倒されつつ、明るく聡明でウィットに飛んだ美穂先生のお話は、軽快でさらっとした心地よさがありました。どんな質問にもそれ以上のお答えをしてくださり知識の広さも深さも、患者さんのことを思い勉強しつくされた結果に違いありません。すばらしいご講義を本当にありがとうございました。

私は、ちょうど 2000 年頃から新薬を患者さんに届けることが最終ゴールという仕事に携わっています。その間、大きな変化がたくさんありました。その中でもとても影響が大きかったドラッグラグ解消のための審査期間の大幅短縮と未承認薬検討会の枠組みの導入。これらが美穂先生が率いるご活動が起爆剤になっていたとは、大きな驚きで、医療と患者さんへの貢献や医療・医薬品業界にもたらしたものは驚異的といっても過言ではありません。

しかし一方で、「治療薬が増えても患者さんが幸せになるわけではなかった」という気づき。

ご講義の翌日の朝、目が覚めるや否や美穂先生のこのお言葉がパツと出てきたくらい、強く残りました。

可能になった多様な治療選択肢から医師は最良の治療を選ぶことが難しくなった中で、医師と患者さんのコミュニケーションが昔よりも不十分になって患者さんの不安がますます大きくなっている現状は、とても大きな問題だと感じます。

「看護師さんがきて、なんでもいってくれていいよと、背中に手をあててくれて、一緒にがんばろうといってくれた。手当て言葉を感じ、人ってあったかいな〜って」

さまざまに進化する一方で、美穂先生が苦しかったときに、勇気を得られた人のぬくもりこそ、病気の不安を抱える患者さんにとって、いえ、誰にとっても今一番必要なことでしょうね。